

東博のガラスコレクション

明治期ガラス工芸の諸相

東京国立博物館 本館 14 室 2022 年 7 月 12 日 (火) ~ 9 月 4 日 (日)

150th Anniversary Thematic Exhibition

Tokyo National Museum's Glassware Collection

Domestic and Imported Works from the 19th Century

July 12–September 4, 2022

Room 14, Honkan, Tokyo National Museum



⑫ 切子銅赤色被せ
ガラス鉢

東京国立博物館（東博）が収蔵するガラス作品のなかから、おもに明治期前後につくられ、博物館草創期にコレクションに加わったものをご紹介します。

日本では、江戸時代から食器など生活用具のガラス器が本格的に生産されるようになります。なかでも切子（カット）ガラスは、江戸時代末から薩摩をはじめ江戸、大坂でもつくられ、緻密で豊かな文様装飾を生み出しました。その多彩な表現は、小さなガラス製の雑道具にも見ることができます。

明治時代に入ると、西洋式のガラス生産を目指す動きがおこり、明治9年（1876）には官営の品川硝子製造所（のちの品川工作分局）が設置されます。その製品は内国勸業博覧会にも出品され、一部が東博に寄贈されました。

またコレクションには、珍しい舶来のガラスも含まれています。たとえば、幕末期の箱書きを伴った脚付のコップや、金彩の施されたカットガラス、そして、イギリスの工業デザイナー、クリストファー・ドレッサー（1834～1904）が選定に関与し、明治9年に日本に寄贈したイギリスやフランスのガ

ラスなどです。これらは、東博のガラスコレクションに彩りを与えています。

創立150年を迎えた東博ならではの、多様な来歴で、かつ貴重な国内外のガラスコレクションをお楽しみください。

This exhibition showcases select glassware from the Tokyo National Museum Collection. Most of these works were created around the time of Japan's Meiji era (1868–1912) and were acquired early in the Museum's history.

The lineup includes women's hair ornaments and miniature accessories for *hina* dolls from the Edo period (1603–1868); works exhibited at one of Japan's National Industrial Exhibitions; Japanese and European cut-glass objects; and British and French glassware donated to the Museum by a British designer. The exhibition presents domestic and imported glassware—an assortment unique to Tokyo National Museum, which is celebrating its 150th anniversary this year.

江戸時代のガラス

髪飾具

東博が収蔵する江戸時代の国産ガラス作品のなかに、髪飾具があります。女性たちのおしゃれを彩る櫛、笄、簪はさまざまな材質でつくられ、ガラス製は粋なアイテムとして好まれました。



② 髪飾具(櫛・簪)

Women's Hair Ornaments

脚付杯

幕末期の箱書きをもつ外国製のコップです。こうした長い脚の杯は、浮世絵にもしばしば登場し、国内でも好まれてつくられていたことがうかがえます。



③ 白色ガラス花鳥文脚付杯
Goblet with a Bird and Flowers



④ 白色ガラス草花文脚付杯
Goblet with Flowering Plants

雑道具 のなかの ガラス

江戸時代、多彩なガラス器がつけられていたことは、雑道具からもうかがうことができます。小さいながら技巧に富んだ、豊かなガラスの世界が広がっています。



⑤ 切りガラス徳利・皿
(雑道具)

Cut-Glass (Kiriko)
Lidded Bottle and Bowls
Hina Doll Accessories

品川硝子

品川硝子製造所は、明治6年(1873)に日本初の本格的な西洋式ガラス工場として設立された興業社を前身とします。同社では、洋館建設が増えたことに伴い、板ガラスが生産されました。明治9年に工部省に買い上げられて官営となり、明治11年にその名称を品川工作分局としました。その後、明治25年の解散まで、いく度か営業形態や名称を変更しながら、日本の近代ガラス工業の一時代を築きました。



⑨⑩ 斑色ガラス筆筒
Brush Holders



⑪ 斑色ガラス瓶
Bottle



多彩なカットガラス

東博收藏の国産切子ガラスを代表するのが、薩摩切子を学んだ宮垣秀次郎による2件の鉢です。一つは内国勲業博覧会の出品作 (No. 12) で、もう一つは明治11年に宮垣本人から購入したもの (No. 13) です。宮垣秀次郎は、興業社開業時には全国から招聘されたガラス職人の一人として、東京で活躍しました。

国産の切子ガラスとして、宮垣作品とあわせて、薩摩、江戸でつくられた切子ガラス器 (No. 14) も展示します。



国産の切子ガラス

⑭ 切子ガラス器
Cut-Glass (Kiriko) Bowls



⑫ 切子銅赤色被せガラス鉢
Cut-Glass (Kiriko) Bowl

紀州徳川家 旧蔵の カットガラス

收藏品には、明治以前に日本に伝わっていたとみられる外国製のカットガラスもいくつか含まれています。なかでも、徳川御三家の一つ、

紀州 (南紀) 徳川家旧蔵の3件 (No. 15 ~ 17) は形状、来歴ともに收藏品のなかでも珍しい作品です。縁に金彩が施された白色の鉢は、直線と曲線を組み合わせたカットで花卉文様をあらわし、類例からイギリスやアイルランド由来のものと考えられます。鮮やかな彩色の鉢は、貝のような口縁部と側面の細かな突起状のカットが特徴的で、類例からボヘミアガラスの一種とみられます。大名家の華やかな饗応の様子がうかがえる作品です。

⑯ 切子金彩ガラス鉢
Cut-Glass Bowls



⑰ 切子加彩ガラス鉢
Cut-Glass Bowl



紀州徳川家旧蔵を示すラベル (No.17の箱 部分)

⑮ 切子金彩ガラス蓋付鉢
Cut-Glass Lidded Bowl



イギリス、フランスのガラス

——ドレッサーとともに来日した寄贈品

明治9年、イギリスのデザイナーであったドレッサーが、300点を超すヨーロッパの美術工芸品を携えて来日しました。この美術工芸品は、イギリスのサウス・ケンジントン博物館（現 ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館）館長の厚意によって日本のために集められたもので、ドレッサーも選定に関与しました。その背景には、1873年開催のウィーン万国博覧会から日本へ帰国の途にあった貨客船ニール号が伊豆沖で沈没し、出品作品や現地で購入された多くの品々が海に沈んだという出来事がありました。東博には、やきものと同様にガラスを中心に現在58件が収蔵されています。



20 白色ガラス草花刻文碗

Bowl with Flowering Plants



19 白色ガラス蛙蜻蛉刻文瓶

Vase with Frogs and a Dragonfly



22 彩色ガラス七宝草花文盆

Footed Dish with Flowering Plants



23 彩色ガラス七宝草花文小器

Small Vessel with Flowering Plants

● 作品リスト

名称	作者・製作地	時代	伝来・寄贈	所蔵番号
1 ガラス七宝脚付杯	竹内忠兵衛作	明治14年(1881)頃	第二回内国勲業博覧会出品、竹内忠兵衛氏寄贈	G-606
2 髪飾具(櫛・簪)		江戸時代・19世紀	山口清三氏寄贈	I-3848
3 白色ガラス花鳥文脚付杯		19世紀		G-3220
4 白色ガラス草花文脚付杯		19世紀	高橋捨六氏寄贈	G-3226
5 切子ガラス徳利・皿(雑道具)		江戸時代・19世紀	前川富士子氏寄贈	I-4437-64
6 切子ガラス杯(雑道具)	七澤屋製	江戸時代・19世紀	前川富士子氏寄贈	I-4437-51
7 切子ガラス酒器(雑道具)	七澤屋製か	江戸時代・19世紀	前川富士子氏寄贈	I-4437-53
8 斑色ガラスコップ(雑道具)		江戸時代・嘉永3年(1850)頃	三谷てい氏寄贈	I-1960
9 斑色ガラス筆筒	品川工作分局硝子製造所	明治14年(1881)頃	第二回内国勲業博覧会出品、品川工作局寄贈	G-591
10 斑色ガラス筆筒	品川工作分局硝子製造所	明治14年(1881)頃	第二回内国勲業博覧会出品、品川工作局寄贈	G-592
11 斑色ガラス瓶	品川工作分局硝子製造所	明治14年(1881)頃	第二回内国勲業博覧会出品、品川工作局寄贈	G-594
12 切子銅赤色被せガラス鉢	宮垣秀次郎作	明治14年(1881)頃	第二回内国勲業博覧会出品	G-595
13 切子銅赤色被せガラス鉢	宮垣秀次郎作	明治10年(1877)頃		G-596
14 切子ガラス器	薩摩、江戸	江戸～明治時代・19世紀		G-933
15 切子金彩ガラス蓋付鉢		19世紀	紀州徳川家旧蔵	G-2446
16 切子金彩ガラス鉢		19世紀	紀州徳川家旧蔵	G-2447
17 切子加彩ガラス鉢		19世紀	紀州徳川家旧蔵	G-2445
18 切子ガラス台付鉢		19世紀		G-1614
19 白色ガラス蛙蜻蛉刻文瓶	イギリス	19世紀	グリーン&ネフュー社寄贈	G-1565
20 白色ガラス草花刻文碗	イギリス	19世紀	グリーン&ネフュー社寄贈	G-1566
21 白色ガラス花鳥文杯	イギリス	19世紀	グリーン&ネフュー社寄贈	G-1570
22 彩色ガラス七宝草花文盆	フランス フィリップ・ジョセフ・プロカル作	19世紀	グリーン&ネフュー社寄贈	G-1572
23 彩色ガラス七宝草花文小器	フランス フィリップ・ジョセフ・プロカル作	19世紀	グリーン&ネフュー社寄贈	G-1571

【謝辞】本特集においては、安河内幸絵様、林佳美様(以上、サントリー美術館)、中山創太様、山田麻里亜様(以上、神戸市立博物館)に、類似作品調査等で御高配を賜りました。記して感謝申し上げます。

創立150年記念特集 東博のガラスコレクション —— 明治期ガラス工芸の諸相

令和4年(2022)7月12日発行

執筆：横山梓 撮影：藤瀬雄輔 ほか 翻訳：君波妙子(以上、東京国立博物館)

制作・印刷：精興社 編集・発行：東京国立博物館

© 2022 東京国立博物館 Tokyo National Museum